

玉造厚生年金病院広報誌

# 夕映え

2008 春号 vol.14

## — 理念 —

1. 私たちは、医療人としての責任を自覚し、研修をおこたらず安全で水準の高い医療の提供に努めます。
2. 私たちは、患者さまが自立した生活を送れるよう身体機能の回復、維持、日常生活動作の改善を支援します。
3. 私たちは、「いつも笑顔で真心こめて」をモットーに、患者様の立場に立った心温まる医療を行います。
4. 私たちは、地域の人々のために、保健・福祉活動の充実に努めます。



## 第2回人工関節友の会の集いを開催して

人工関節センター看護師長 川上 美里



島根県民会館大会議室前のフロアから窓の外を眺めると、観光客を乗せた車の往来と、お城周辺を歩く観光客の姿、その向こうに松江城がよく見えます。

人工関節センターでは、昨年開催した友の会の集いの反省をもとに、今年は交通の便がよく、出来るだけ多くの方が参加していただけるようこの会場に決定し、去る4月26日（土）、第2回人工関節友の会の集いを開催しました。参加者は家族26名を含む134名で、ゴールデンウィーク初日にもかかわらず、県内をはじめ群馬、大阪、兵庫、鳥取、広島、福岡など遠方からも多くの参加をいただき、会場は一気に熱気に包まれました。

開会にあたり、上尾豊二院長の挨拶後、池田登整形外科部長の「深部静脈血栓症について」、原田利夫歯科口腔外科部長の「虫歯と歯周病と人工関節について」の2題の講演を行いました。

池田部長の講演では、深部静脈血栓症の予防の重要性を理解していただき、先生の書いた資料（論文）がすべてなくなるほどの反響でした。一方、原田部長の講演においては、「早速歯石を取りにいこう。」「歯のメンテナンスを4ヶ月に1回行く。」「歯の怖さを知ることが出来た。」等の感想が参加者から聞かれました。途中スライドが映らなくなるハプニングがあり、会場の皆様にご迷惑をおかけしましたが、座長の小谷センター長の流暢な進行もあり、無事講演は終了しました。

講演後引き続き17テーブルにわかれて、交流会を開催しました。交流会では上尾院長をはじめ、それぞれの先生方、看護師、訓練士等も加わり、和やかな雰囲気でお話が弾みました。この人工関節友の会集いの本来の目的である、参加された方同士あるいはスタッフとの交流を





通じて知識を共有し、お互いが身近に感じることが出来たと感じました。また、フォレストアンサンブルのコーラスでは、一緒に歌い、楽しいひとときを過ごしていただけたと思います。参加された方からは、これからもこのような会を継続してほしいとの声もいただきました。

本年4月1日現在の会員数は440名です。都合で参加できなかった会員の皆様にも出来る限り様子がわかるよう、また参加された皆様にも再度様子を思い起こしていただけるよう、「友の会便り」にこの模様を掲載しお届けする予定です。次回の開催は来春を考えています。さらに内容を充実させ、参加していただく方々とスタッフがより身近になり、一層喜んでいただける集まりにしたいと思います。

## 職員紹介



大西 祥博  
整形外科医長  
平成20年  
4月1日採用

平成20年4月より赴任となった大西です。玉造厚生年金病院で2年の勤務の後に静岡県浜松でうなぎを食べつつ3年間、滋賀県の天津でふな寿司を食べつつ2年間働き、再び玉造厚生年金病院で働かせていただくこととなりました。以前と比べいろいろと院内のシステム変わっており、これも時代の流れかと思っております。いろいろとご迷惑をおかけすることもあると思いますが、今後とも末永くよろしくお願いいたします。



丸山 善弘  
整形外科医員  
平成20年  
5月1日採用

平成20年5月から整形外科医として当院で勤務している丸山です。大阪市出身で以前は滋賀県の病院に勤務しており、関西から離れるのは今回が初めてです。赴任して1ヶ月がたちますが、まだまだ病院では戸惑うことも多いです。山陰にはまったく土地勘がありませんが、せっかくの機会なので多くの知識や技術の習得とともに日本海の海の幸を堪能したり、数多くの温泉地を巡ったりして、仕事もプライベートも充実した日々を送りたいと考えております。今後ともよろしくお願いいたします。

## 骨密度測定装置 更新のお知らせ

最新鋭の骨密度測定装置に更新となり、2008年3月24日より検査を開始いたしました



**従来の装置に比べて 検査時間が大幅に短くなり  
より正確な検査が可能となりました**

検査はとても簡単！ 装置の上に仰向けで寝ているだけ！

**痛みや苦痛、身体への害はありません**

米国HOLOGIC社製 Explorer

骨密度測定を希望される方は  
医師・看護師にご相談ください

費用は、3割負担の方で **約 1080円**

(但し、健康保険の適応にならない場合もありますので、主治医にご相談ください)

## 医療の現場から ～治療トピックス～

### 関節リウマチと生物学的製剤

リウマチ科部長 川上 誠



今年で52回目となる日本リウマチ学会が、丁度桜の花がほころび始めた爽やかな陽気の札幌で開催されました。私は本学会に20年前から出席しています。5、6年前までの学会での発表は関節リウマチの病因や関節破壊に影響を与えるサイトカイン関連の基礎研究が中心でした。しかしながら、近年の演題は、それまでの基礎研究から発展して新たに開発された製剤、即ち生物学的製剤の臨床の現場における治療内容に発表の中心が移ってきているようです。

関節リウマチに用いられている主な治療薬を表1に示します。

従来の治療薬である「消炎鎮痛薬（ロキソニンなど）」、「抗リウマチ薬（リウマトレックスなど）」、「副腎皮質ステロイド薬（プレドニンなど）」に新しく加わったのが「生物学的製剤」です。現在、関節リウマチに対して保険適応がなされている生物学的製剤を表2に示します。日本では、TNF（腫瘍；Tumor、壊死；Necrosis、因子；Factorの略）阻害薬のなかで、まずインフリキシマブ（商品名；レミケード）が登場し、続いてエタネルセプト（同；エンブレル）が発売になっています（図1）。日本では、レミケード、エンブレルの両者を合わせて現在5万人の関節リウマチ患者さんが治療をなさっていることが報告されています。このことは、日本における全関節リウマチ患者さん（約70万人）の15人に1人がレミケード、エンブレルのどちらかの製剤で治療をなさっていることとなります。更に、この夕映えの雑誌が皆様のお手元に届く頃にはアダリムマブ（同；ヒュミラ）およびIL-6（アイ・エル・シックス；サイトカインの1つ）に関わった研究者（主に大阪大学）と製薬会社（中外製薬）が協力して日本で開発されたトシリズマブ（同；アクテムラ）が基礎研究から20年のときを経て医療現場へ本格的に投入されることになっているでしょう。

生物学的製剤は従来の治療で難渋した患者さんにも抗炎症作用を示して関節腫脹の消褪、疼痛の緩和に優れた効果をもたらす反面、一般的な免疫機能を減弱するため個々の感染症に十分留意しなければなりません。また、生物学的製剤は関節リウマチそのものを直接的に治療するわけではありません。しかしながら、既に全世界で10年以上発売され続けられていることを考えると、これらの生物学的製剤が日本でも今まで以上に有益な薬剤として使用されることが期待されています。

表1 関節リウマチの治療薬

- ・ 消炎鎮痛薬（ロキソニンなど）
- ・ 抗リウマチ薬（リウマトレックスなど）
- ・ 副腎皮質ステロイド薬（プレドニンなど）
- ・ 生物学的製剤



表2 生物学的製剤

- ・ TNF 阻害薬
  - キメラ型抗 TNF  $\alpha$  抗体（インフリキシマブ；レミケード）
  - 可溶性 TNF レセプター（エタネルセプト；エンブレル）
  - 完全ヒト型 TNF  $\alpha$  抗体（アダリムマブ；ヒュミラ）（ゴリムマブ；シンポニー）
  - ペグヒト化抗 TNF  $\alpha$  抗体 Fab 断片製剤（セルトリスズマブペゴル；シムジア）
- ・ 抗 IL-6 レセプター阻害薬（トシリズマブ；アクテムラ）
- ・ CD80/86 阻害薬（T細胞）（アバタセプト；オレンシア）

## 新潟県中越沖地震 災害派遣活動に参加して



看護師 板倉 加代

私は、2007年7月16日に起きた新潟県中越沖地震の災害派遣活動に参加しました。派遣は、地震から約3週間後に日本看護協会からの要請で、当院からは看護師3名が活動に参加しました。その中で私は、被災地周辺のコミュニティセンターと小学校へ3日間行って来ました。派遣先では、私たち看護師2名の他に、県と市の職員5名、保健師2名でコミュニティセンターと、小学校の避難住民約35名を24時間対応で支援しました。

看護師が実際に行った活動は、避難者や周辺住民の健康管理・相談・支援、巡回診療の介助、衛生管理の指導、主に食中毒・熱中症に注意することでした。

避難者や周辺住民の健康管理・相談・支援とは、被災前から病気があった方はもちろん、治療食が必要な方への食事の準備、被災したことで過度の精神的ストレスが加わり高血圧や不眠症になったり、精神疾患があり精神状態がコントロールできない方への援助などで、必要に応じて受診を勧めることもありました。

また、被災でかなりの精神的ストレスと不安を抱えられているため、話に耳を傾けることもしました。巡回診療とは、被災地では思うように医療を受けることができないため、避難所・近隣の住民の方で診察を希望された方や、私たちが医師の診察を受けたほうが良いと判断した方は、無料で県の医療団の診察が受けられます。私たちは、避難所の方に朝と夕方の2回健診し、受傷後の観察と診察結果の把握、高血圧・頭痛・便秘の訴えなどを巡回診療へ結び付けました。衛生管理の指導としては、避難所は生活空間も兼ねているため、食事準備ではマスク・手袋・手指衛生の励行を促し食中毒を予防しました。また、災害が発生したのが夏ということもあり避難所はクーラーをつけていても日中は40℃以上となるため、小児や高齢者に十分な水分摂取を促すなど熱中症の予防も図りました。

被災地は私が考えていたより想像を絶するものがありました。地震がおきてから3週間が経過していたため避難所はガス・水道・電気などのライフラインは復旧していましたが、復旧していたのは避難所のみでした。この災害派遣活動に参加させていただき、私の中に災害看護というものがとても大切に身近に感じられるものになりました。皆さんも、災害について今一度考えてみられてはどうでしょうか。



自衛隊派遣



避難所の様子



巡回診療の様子



震災で倒壊した家

※今回の記事の掲載にあたっては、5月に起きた中国四川大地震により、改めて震災の怖さと、周囲のサポートの大切さを痛感させられたことから、掲載しています。



## 1. 脊椎外科センター病棟は

当センターは2006年10月1日に開設し、脊椎手術を受ける患者さまの手術前から退院まで専門的な医療をチームで提供しています。スタッフは千束センター長（副院長）、石部医長を中心にリハビリ担当者、在宅復帰支援担当者、看護師19名、看護補助者6名です。患者さまは、概ね手術が目的で、年齢は20歳から80歳までと幅広い方々が入院されています。



昨年度の脊椎手術症例数は、260例で、内訳は胸腰椎212例、頸椎48例を行いました。

最近、内科的疾患を合わせ持った方が多く合併症の併発を最小限にする為に、手術前検査入院のシステムを導入しています。手術後は主にセンター内にある「亜急性期病床」に入室して頂き、入院から手術後のリハビリまで同じスタッフで一貫した医療を行っています。



## 2. 私達はこんなことをしています

私達は、以下7つのことを主に行っています。

- ①手術を受ける患者さまに、外来で手術前の状態を調べ、必要に応じて他科受診を依頼して、全身状態を整えるための援助
- ②入院に必要な物や入院後の生活方法についての説明
- ③入院後、手術に備えて体調を整えて頂く援助
- ④手術後のベット上安静期間の必要性の説明と、その間の生活の仕方の練習、および腹部膨満予防のための排便コントロールの援助
- ⑤コルセットなど装具の装着・着脱方法の練習と体験指導
- ⑥手術後、患者さまとご家族の方が個室にて安心して過ごせる療養環境の配慮
- ⑦手術後の日常生活援助やリハビリテーション、入院から退院後の生活指導など、受け持ち看護師を中心に医療チームで援助すること

手術を受けられる方の中には、加齢に伴い生活習慣病を合併していることもあり、手術前後の管理が一層重要となっています。手術を無事終わられ、苦痛が緩和し笑顔で退院される患者さまやご家族の姿は私達の元気の源です。その笑顔に支えられて毎日頑張っています。

(文責 脊椎外科センター看護師長 岡田治子)

# 脊椎インプラントカードが完成いたしました

あなたの体内には写真の金属が入っています



手術日：2008年4月1日

氏名：玉造 花子

玉造厚生年金病院

- 当院では、体内金属が入った脊椎術後のX線写真をプリントして希望される患者さまに提供しております
- 手術の記念や飛行機の搭乗検査時の提示用にご利用いただけます
- 表装はラミネート加工で丈夫です
- サイズは「パスポートサイズ」と「キャッシュカードサイズ」の2種類のうち、ご希望サイズをお選びください
- 購入代金は 1枚 1,000円です
- 購入を希望の方は、看護師にお申し出下さい。後日郵送いたします  
(支払は、外来診療費支払時に、購入代金と郵送料を医事課でご精算いただきます)

## 表紙の写真

5月の連休にイングリッシュガーデンに咲いていた藤の花です。フジ（藤）は、マメ科のつる性1種の種名で4～5月に淡紫色または白色の花を房状に垂れ下げて咲かせます。

花言葉は、「恋に酔う」です。春の終わりをつげるかのように散り行きます。高貴な佇まいは、清少納言をはじめとする数多くの雅人に愛されました。大伴四綱は、「藤浪（ふちなみ）の花は盛りになりけり平城（なら）の都を思ほすや君」と万葉集で詠んでいます。新緑の美しい季節になりました。散り行く花を眺めながら藤棚の下で一休みするのもいいですね。(F.S)

## 編集後記

6月の声を聞くといよいよ今年も梅雨入りかと感じる。梅雨の語源には、この時期には湿度が高いため黴（カビ）が生えやすいので「黴雨（ばいう）」と呼ばれ後に「梅雨」になったという説や、この時期は梅の実が熟す頃だからという説や、この時期は、“毎”日のように雨が降るから「梅」という字が使われているという説があるそうです。

天候も不安定な時期ですので、体調管理には十分気をつけたいものです。爽やかな夏が待ち遠しいな～。(K.T)

■編集・発行責任者 上尾 豊二  
〒699-0293 島根県松江市玉湯町湯町1-2  
TEL 0852 (62) 1560  
<http://tamahosp.jp>

夕映えのバックナンバーはホームページでもご覧になれます。